

大豆技術情報 第2号

令和2年6月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

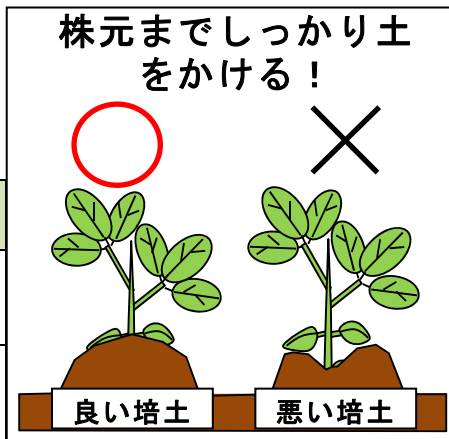
- 「確実な培土」と「溝の連結」で、初期生育の確保を！
- 培土後、発生している雑草の種類を確認し、除草剤を適切に使用しましょう。

培土

- ・1回目は遅れずに、2回目は晴れ間を逃さず確実に実施しましょう。

表1 培土の時期と高さ（右図参照）

	時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後 20～25 日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後 30～35 日頃)	初生葉が埋まる程度



②排水口を掘り下げる

【培土作業のポイント】

- ◆作業の前に培土板の調節や耕うん爪を点検し、すり減った爪は交換しましょう。
- ◆乾いたほ場から作業を行い、株元までしっかり土を寄せましょう。
- ◆培土でできた溝は額縁排水溝や排水口にしっかり連結しましょう。

雑草防除

- ・雑草の種類を確認し、雑草に薬剤が十分かかるように散布しましょう。

表2 草種別除草剤 ※周辺の作物に飛散しないよう注意！

対象雑草名	薬剤名	使用時期	使用方法	10a当たり散布量	使用回数
1年生イネ科雑草 (スズメカサビラを除く)	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 (収穫 30 日前まで)	雑草茎葉散布	薬量 200～300mℓ (水 50～100ℓで希釈)	1回
1年生広葉雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	大豆2葉期～開花前 雑草生育初期～6葉期(収穫 45 日前まで)	全面散布	薬量 100～150mℓ (水 100ℓで希釈)	
		大豆の生育期 雑草生育初期～6葉期(収穫 45 日前まで)	畦間雑草茎葉散布	薬量 300～500mℓ (水 100ℓで希釈)	

難防除雑草(帰化雑草等)の大豆圃場へのまん延防止対策

表3 難防除雑草(帰化雑草等)の大豆ほ場へのまん延防止対策

対策	作業・管理内容
ほ場に入れない	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺域で発生がみられたら、手取り除草又はバスタ液剤を散布する ・刈り払う場合は、再生防止のために地際から行う
種子を増やさない	<ul style="list-style-type: none"> ・結実前に手取り除草またはバスタ液剤を散布する ・刈り払う場合は、再生防止のために地際から行う <p><雑草種子が結実した場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈り取った株は放置せず、ほ場外で適切に処分する ・収穫後のすき込みは実施しない (地表面に落下した種子をそのまま放置し発芽能を低下させる)
ほ場外に広げない	<ul style="list-style-type: none"> ・機械作業の順番を後にする(トラクタ、コンバイン等) ・機械の清掃を徹底する ・粗選別時のゴミはほ場外で適切に処分する



令和2年度 富山県農薬危害防止運動(6/15～9/14)
～農薬は 周りに配慮し 正しく使用～